

轉庵披書點錄句集

題 春序 戀結

大政

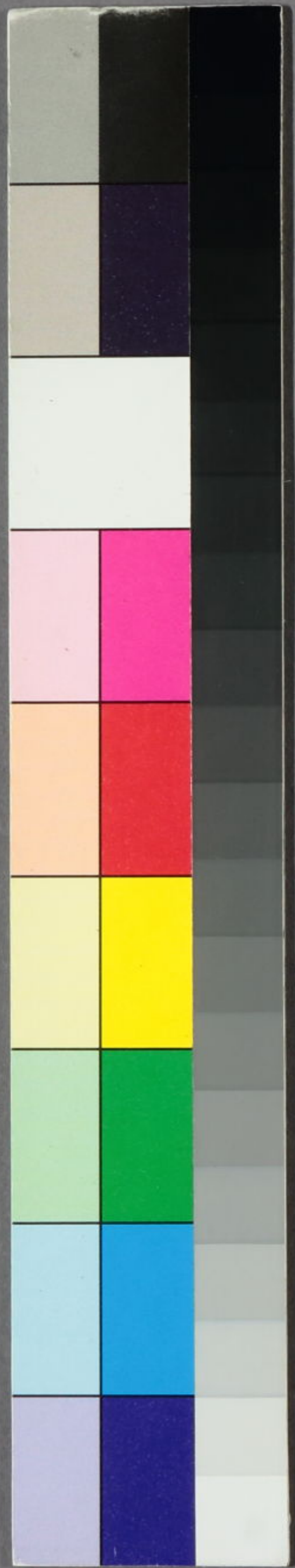
八千房支仙宗近選

東京

三國庵一瓢宗近選

春

其下

















二  
 七  
 八  
 四  
 行秀や戀に惚たる京女郎  
 初音や髪結ひ垂す聖鈴を  
 あり解と春の聴て睡り  
 産膳も春の輝や花は後  
 半袴帯秘窓の鏡を振り  
 結ぶよと伸る柳や女支指  
 掛てる乙女の衣や花は  
 結衣や垣間へる脊を  
 懸月文を壁と誰か  
 懸衣や結ひ安き恋衣

(京都河原町六角今中印行)

|    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 山梨 | 川 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |
| 山梨 | 川 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |
| 山梨 | 川 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |
| 山梨 | 川 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |

五  
 六  
 八  
 六  
 梅草の嫁の次第語り  
 離るる眼元と妹に通ひ  
 春の灯に春の新郎新婦  
 花の帯覗く才面美人  
 鳥衣の袖を春に引く  
 懸衣や浜邊に二人影  
 懸衣や春言でかす花  
 懸衣や花格子に結ひ  
 懸衣や春言の思案に花  
 懸衣や人に云はぬ先

|    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 山梨 | 川 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |
| 山梨 | 川 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |
| 山梨 | 川 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |
| 山梨 | 川 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |







春約や明日もまた好と其時好に  
 細殿に媚く聲や一瞬 息  
 堂也や 色は若き花の落し  
 佐保形は赤乳まき髪。系柳  
 願事には心に秘めて長谷の花  
 恨免くは人に投た〜地打  
 黄鳥に口舌の先を折られま  
 才吉や月元の鑑は片笑四  
 春は月余者花影を思〜々  
 出うなる之味を何処そ春は春

(京都河原町六角 今中印行)

|    |    |    |    |    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| ワア | 京車 | 大  | ワア | 大  | 大  | 大  | 大  | 大 |
| 双亭 | 其游 | 月枝 | 龍宝 | 龍宝 | 明石 | 佳月 | 其牙 | 明 |

後好は肌下〜たもる余もその乳  
 引舞〜に置きい忘るた〜 春は猫  
 柳と曠妹と半は花人の那  
 嫉妬には爪を隠す猫は其  
 う〜れ猫連ぬ声のみ出せ〜  
 右に出る隈ひは〜 非初免  
 梅咲く都を公と落は下に意ま〜  
 統制も用もなき門を行き〜  
 春のつか〜 陽〜 暮〜 花見は  
 意を建つけて奪る〜 秋かゝた

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 二 | 健 | 雲 | 葉 | 情 | 春 | 李 | 百 | 燭 |

五

五

四

四







待り人々... 結ぶ柳...  
 春の夜... 後妻...  
 六 蝶物も上手...  
 八...  
 六...  
 白魚... 傳...  
 永き日... 雀...  
 春の夜... 新...

(京都河原町六角今中印行)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大 | 口 | 半 | 清 | 明 | 周 | 明 | 東 | 松 |
| 龍 | 子 | 木 | 水 | 石 | 楽 | 石 | 十 | 松 |

九  
 六  
 二日... 母の夜...  
 恋... 結...  
 九  
 恋... 結...

|    |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| カサ | 及 | 江 | 及 | 及 | 及 | 及 | 及 | 内 |
| 美  | 子 | 巴 | 更 | 一 | 子 | 玉 | 雲 | 雲 |
| 珠  | 容 | 岸 | 更 | 岸 | 容 | 珠 | 遊 | 遊 |



九

寄浜よりてぬれたくは花は下り  
 晴嘉よりてまの静か遊女所  
 ニツ文字つての文字花のひと  
 にか腹で古市出ると  
 琴を音をききふ笛の  
 月朧物も想思の戀や  
 紫の香にふと行向  
 花よりけり占  
 悟きくく小高りの下結朧月  
 戀物に招くが如く  
 朧月

(京都河原町六角今中比行)

|    |    |    |    |    |    |    |         |
|----|----|----|----|----|----|----|---------|
| ハニ | 江  | 及大 | 及大 | 及大 | ワ  |    |         |
| 子年 | 義室 | 多力 | 湖物 | 尾舟 | 龜手 | 芳文 | 七山      |
|    |    |    |    |    |    |    | 明石      |
|    |    |    |    |    |    |    | 如九<br>件 |

五

七

八

戀瘦の美女色白く初宿  
 握り手に舞う若殿や朧月  
 歌占方連ぬぬるや帰る  
 時言はつてさなは廊を春  
 ようき仕るけりけり番や  
 思ふれとむむ白ひやとし  
 なびいても根を動かぬ  
 紅梅の傾城を思ふ扇折  
 花吹雪の願はるるの夫婦連  
 鶯の香る梅をきくこれ

|    |   |    |   |   |   |   |   |
|----|---|----|---|---|---|---|---|
| 和泉 | 京 | 及大 |   |   |   |   |   |
| 熊  | 叶 | 南  | 玉 | 梅 | 石 | 子 | 山 |
| 文  | 家 | 林  | 鳳 | 名 | 鷄 | 容 | 山 |
|    |   |    |   |   |   |   | 子 |
|    |   |    |   |   |   |   | 中 |







八月に致日の春着里せり  
 きぬくの門に名残のきこつた  
 新嫁の披垂も帯て離れ宴  
 門松に枝まきまきふ 花の  
 戀をいぬきび訪ぐもかほる松  
 勇将も戀に謀ぐる花は款  
 つらまても年は隠せず境 桜  
 島原に車つらぬつあまの春  
 緋島に神瀧包もや春の春  
 まなれどと春の結ぶや松と葛

(京都河原町六角今中印行)

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 島原 | 濱長 |    | 彦良 | 改大 | 改大 | 江と |
| 夏中 | 森山 | 子容 | 芳文 | 明石 | 南林 | 佳月 |
|    |    |    |    |    |    | 花友 |

善室て祝ふ二日の新嫁つらぬ  
 小半紙の文は透しきり 花  
 人ぬ披いで嫁を祝ぐも花は款  
 萱草や誰のきこせし花は款  
 萱草や 神聖な戀語の合ふ  
 角達ひ祝うとそりなまあるらぬ  
 羽子板や 祝か 祝く 珍れ穴  
 粧嘆くも 所りし 所る 娘の顔  
 歌多き會小町一人を問ひきり  
 花多き花は小町に花は款

|    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 改大 | 改大 | 山梨 | 京車 | 島原 | 改大 | 改大 | 改大 |
| 善室 | 花月 | 百花 | 燈臺 | 用乐 | 花月 | 花友 | 花友 |
|    |    |    |    |    |    |    |    |



美く〜き娘や娘や 花の中  
 初恋の思ふや 梅は薫る窓  
 春の世も静く〜のちよとて 花茎  
 逢ふ度に 測らざる 潮や 上り 船  
 人知れず 意中の 人に 居るや 即  
 春の世も 志のふ 少袖の おあろ 染  
 晴〜さうと 霧に 折〜り けり 氣想文  
 多舞て〜をく〜の 味 縁や 好 縁  
 わたし〜に 泣きも 哀ふ 燕も 好り 来て  
 昔も人も 心ゆく〜まも 氣想文

(京都河原町六角今中印行)

|   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大 | 福 | 山 |   |   |   | 福 | 大 |
| 二 | 健 | 百 | 明 | 半 | 百 | 淡 | 芳 |
| 二 | 岳 | 花 | 石 | 寸 | 森 | 香 | 文 |

い〜と 思ひ 初〜と 幸 男  
 夢年〜も 幸も 春の 祇園 所  
 善哉の 神 通〜 ぬ 月 朧  
 井に〜も 届け ば 濡る 袂〜ぬ  
 逢ひぬ 夫 交 射 止めて 予 始  
 結ゆ ぬ 帰んて 出 宿き 花〜ん〜ぬ  
 夫婦とは 呼ぶ ぬ 縁 縁や 春の 世も 白  
 老あに〜も ちよと 色 香の〜 梅は 花  
 紅梅や 油断 ぬ 縁 縁の 道  
 春の 世も 春の 世も 息の 海 鳥も

|   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 京 | 兵 | 廣 | 大 | 大 |   | 福 | 大 |
| 一 | 葉 | 夢 | 文 | 芳 | 扇 | 玉 | 幸 |
| 葉 | 出 | 中 | 華 | 文 | 女 | 玩 | 文 |



胸躍る話ふと出る春の夜也  
 丁好も也 哉の女郎の顔の光澤  
 遠き春の暮に近く 新枕  
 春も如酒をた出でけり春の夜也  
 島原に一日難城也 春の夜也  
 月と梅歩み多うぬ二人連き  
 三つの子天宮おきり 千幕  
 謝事や 女ざきりのよしの男  
 新緑や 藤を衣ぬれし 扇の巻  
 花のみに濡き衣を覆ふつりさゆ

(七)

(十)

(五)

(五)

(五)

(八)

(七)

(京都河原町六角 今中印行)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 子 | 容 | 南 | 石 | 地 | 枝 | 地 | 月 | 海 | 湖 |
| 子 | 容 | 南 | 石 | 地 | 枝 | 地 | 月 | 海 | 湖 |

みだれ髪をたする朝や帰る戸  
 姉許へ 衣をそはく 朧月  
 戀人れ 雪や 櫻に 朧月  
 昔もは 昔とは 髪をす 娘の肌  
 ぬくころて ひきさく 文の 朧月  
 初花も 吹の 顔の 廊下  
 かく 縫ふ 昔の 羽織や 昔の 春  
 難れ 待つ 昔の 手紙や 昔の 春  
 戀や 昔の 恋の 手紙や 昔の 春  
 待つ 昔の 恋の 手紙や 昔の 春

(八)

(六)

(六)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 子 | 容 | 南 | 石 | 地 | 枝 | 地 | 月 | 海 | 湖 |
| 子 | 容 | 南 | 石 | 地 | 枝 | 地 | 月 | 海 | 湖 |











唐の関連の猫は去来りぬ  
 送るも出ず森孔の也 春の日の  
 意馬に鞭うつ人もけり 花は山  
 留巻を教へけり 向かへり  
 春の歌を戀に眼を病む女はれ  
 春の歌を 舞子のなまふる 房枕  
 見合ふは 梅の心 梅の心  
 春の歌を 夢の暖き 膝枕  
 花の歌を 妹の赤き 衣の心  
 梅の歌を 衣の心 美人の詩

(京都河原町六角今中印行)

|    |    |    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|----|----|---|
| 山梨 | 大  | 大  |    |    | ワ  | 大 |
| 百花 | 双亭 | 二葉 | 情海 | 第十 | 祀山 | 春 |

かく 暮涼山極のなまふるぬ  
 花の日の思ふぬ首尾なるに  
 衣袖に月をきて 菊のまほしき  
 島海さき方おとの鹿や 幸一男  
 海棠や 妻宅内に書のは  
 新羅や 心の涙を おす海  
 浪のぬ 聲は 花の香や 華摘頃  
 花の猫 花の 盛りの 表はなり  
 月花の 花の おりひに なる 花の  
 下萌や 花の 出でたる おりひ草

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 島 | 大 |   |   | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 島 | 子 | 一 | 子 | 文 | 文 | 文 | 文 | 文 | 文 | 文 | 文 |



梅の香を流して香のこころを夢想文  
 高き香もまた香も明けを 菊梅  
 眺る香の中は暗き花の心  
 糖の如き心の心 菊梅 夢想文  
 祝はれし酒の心 菊梅  
 人たのむも思ふも情の夢想文  
 秋初の移り香を菊梅  
 海うらみ酒の香を菊梅  
 情うらみ 膝を枕 菊梅  
 三つの子髪振り 乱す柳のけ

(京都河原町六角今中印行)

|   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| 湖 | 大 | 山 | 七 | 大 | 内 |
| 香 | 香 | 百 | 明 | 南 | 梅 |
| 梅 | 香 | 花 | 花 | 林 | 香 |
| 梅 | 香 | 花 | 花 | 林 | 香 |

五 如梅や 眼へ人たき 琴を主  
 九 折る香も觸れか 菊梅多會  
 忘れた香の人のまた遠く花の心  
 忘れた香の人に又遠く花の心  
 春の香もまた遠く花の心  
 福禱に問きをか 菊梅  
 七 出代つて在る香もまた遠く花の心  
 戀人の香もまた遠く花の心  
 春の香もまた遠く花の心

|   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 江 | 大 | 口 | 大 | 口 | 福 | 春 |
| 香 | 香 | 二 | 香 | 二 | 香 | 香 |
| 梅 | 香 | 香 | 香 | 香 | 香 | 香 |
| 梅 | 香 | 香 | 香 | 香 | 香 | 香 |



海鏡子里戀なれはこそ花の客  
 紅びく花の乳母の眼の丸  
 まては世世ははやくも落戸禍  
 待ち人よしまたよく遠く焙海苔  
 中座より女房を擗や新年會  
 春もやうくあゝ恋は紅葉傘  
 初戀や鬼力十八花盛り  
 新室や芥の粥も春は色  
 月おわり又まを成る別まはれ  
 春は川海もやお半長古事

(七)

(四)

(京都河原町六角今中印行)

|     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |
|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 如山人 | 戸所石 | 江上 | 二葉 | 子容 | 双傳 | 草岳 | 玉玩 | 芳文 | 琴系 |
|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|

きぬくをとおもは花も鈴も下  
 三味線も娘も坊して春は色  
 海棠や沈思の女欄に侍る  
 文殊盛り花を客はけり  
 春も自由も思に意中を演す湯女  
 花にまては浮き流すや隅田川  
 匂ふ人よ浮きまきり猫は恋  
 赤袴を控えて折らす様はれ  
 戀まれば踏も道廣く江戸の春  
 春は色も結ぶは神へ願はまき

(七)

(八四)

|    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| がサ | 大 | 大 | 日 | 大 | 大 | 山 | 京 | 島 | 福 | 京 |
| 薫  | 多 | 多 | 岸 | 文 | 文 | 百 | 標 | 周 | 淡 | 樂 |



















新橋や新嘉の善流は出陣後  
 脱走や梅壺のたりさめ言  
 脱走や思ふ切戸にあり難  
 脱走やうら道通る二人連  
 和氣相合ひ華燭は曲や松の花  
 葉は花や庭目多みの行違ひ  
 すねてんては推仕車すや春の春  
 隔つれど互に親しく月と梅  
 雲存世や道向ふ女言言葉  
 花は戸や望むらん合は来る所

(九)

(七)

(四)

(九)

(京都河原町六角今中印行)

|    |   |    |   |    |    |    |    |
|----|---|----|---|----|----|----|----|
| 大坂 | 京 | 内河 | 大 | 大坂 | 大坂 | 大坂 | 大坂 |
| 美多 | 栞 | 多  | 文 | 文  | 文  | 文  | 文  |
| 多  | 栞 | 多  | 文 | 文  | 文  | 文  | 文  |

新橋や兵會院に女駕籠  
 脱走や戀の瀬川の初流り  
 脱走とえれは定うつ柳うれ  
 脱走も持て余りたり春の春  
 花に思ひきたるは推別時より  
 脱走もた争ふ利壺の五人  
 脱走つげど油断のなき娘  
 脱走の別れは袖や春の春  
 脱走の名は戀に惚るや初電話  
 脱走家説くや戀は奴風

|   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| 京 | 京 | 戸 | 大 | 福 | 京 |
| 佳 | 業 | 湖 | 龍 | 漢 | 龍 |
| 月 | 業 | 湖 | 龍 | 漢 | 龍 |



十

花柳や何事なく先は文使ひ  
 手に持てぬ嫁は仕事や花の留手  
 峰腰碧眼二人春情あまやうに  
 日曜にかけても花を競ひふみ  
 鞠は喧し〜記文に迫る先  
 散ら花を情もも恋の一ツらん  
 私まき音は若待らつ琴のまきも存  
 孤高は評判高〜春は香  
 恋〜きや花に美人の派手染  
 初更にけしきうれ〜二のつた

(京語河原町六角今中印行)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 花 | 山 | 若 | 本 | 後 | 大 | 車 | 大 | 大 | 大 |
| 蕙 | 花 | 月 | 二 | 雲 | 浦 | 子 | 子 | 子 | 子 |

四

四

七

八  
四

大まの福と天物の風と見しききり  
 春は恋の道き二人車  
 恋は別後多願ひや半夜帯  
 若きもや神酒に酔たる女連  
 春は恋の口にく〜〜櫻紙  
 杖を突くとよも活た〜花は緑  
 羨〜姉背の中も〜枇杷柳  
 元日も一ツ車あて 初は色  
 整つと袖曳くやかきたのは舞  
 春もや〜花のけりもふ小傾城

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 花 | 山 | 若 | 本 | 後 | 大 | 車 | 大 | 大 | 大 |
| 蕙 | 花 | 月 | 二 | 雲 | 浦 | 子 | 子 | 子 | 子 |







(五)

子容のくさるる。磨うつり  
 花にささるる。緑紅の  
 春の思。紅湯。角。最合傘  
 童之初。娘の人。唐の花  
 梅。葉。枝。結。ひ。又  
 引。か。く。た。據。る。袖。も。ひ。り。花。中  
 最合傘。歌。て。見。たり。濡。乙。鳥  
 新。梅。也。梅。多。り。出。る。長。煙。管  
 行。善。也。叶。と。ぬ。鳥。に。病。む。合。嬢  
 紅。梅。也。妻。世。帯。に。春。り。勝

(六)

(八)

(四)

(京都河原町六角今中印行)

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 子容 | 花月 | 山花 | 文華 | 長煙 | 梅香 | 夜月 | 二葉 | 湖鏡 | 子容 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|

共卷五下百章



